

6- (1) 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・エクステンション等の諸政策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくことを目標としている。各キャンパスとも、設置学部の特性、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点にもとづき整備している。

- 本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- 学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- 「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- 施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りを目指す。
- 大学構成員の意見を聞きながら支援施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティーの向上に努める。
- すべての施設のバリアフリー化を目指す等、身体しょうがい者にとっても快適な環境を整備する。
- 教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1) 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

施設・設備としては、環境整備・緑化促進、課外活動支援も視野に入れ、安らぎとゆとりあるキャンパスを整備するため平成17年8月より「深草学舎キャンパス修景計画（深草学舎中央広場改修）工事」を開始し、平成18年10月に竣工する予定である。先行して、平成18年4月にはステージ、情報キオスク等構築部分が竣工する。また、隣接地駐輪場新設、体育館改修、紫陽館建具改修、紫光館空調設備改修、南大日グラウンドの拡充等のほか、経年劣化にともなう施設・設備の整備を行う。

備品等の調達としては、生協厨房機器の再整備（3カ年計画）、深草図書館の什器類リプレイス（4カ年計画）、3号館視聴覚機器等のリプレイス等、教育研究・学生支援にとって必要となる備品等の整備を行う。

2) 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

平成18年1月に大宮図書館を改修竣工したことにより、格段に教育研究環境が整備された。しかし、大宮学舎は校地校舎が手狭であり、キャンパスの歴史的価値・地域の特性による制約から、大規模な整備を行うことは難しい。既に取得した近隣不動産の利用計画を引き続き検討する必要があるが、平成18年度においては以下のとおり施設・設備・備品等の整備を行う予定である。

施設・設備としては、東翼照明器具改修（2カ年計画）、西翼新棟給水管改修（2期）のほか、経年劣化にともなう施設・設備の整備を行う。

備品等の調達としては、学生指導スペースの設置、生協厨房機器の再整備（3カ年計画）等をはじめ、教育研究・学生支援にとって必要となる備品等を整備する。

3) 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

建築設備工事としては、まず平成18年5月に瀬田学舎智光館を竣工する予定である。続いて厚生施設である青雲館及び青志館等の改修工事を実施し、学生数の増加に対応した食堂席数の増加を図る。洋風便座ウォシュレット等設置工事は年次計画の最終年度を迎え、瀬田キャンパス全ての建物に洗浄便座付洋式便器を設置することとなる。

教育研究用機器備品の調達としては、まず学術情報センター(瀬田図書館)のAV機器更新を実施する。引き続き、理工学部・理工学研究科の「レーザー光によるマルチスケール弾塑性ひずみ場計測システム」及び「理工学部超高速ネットワーク整備」の調達を実施する。また、老朽化の激しいグラウンド整備機の更新を実施する。

なお、AFC及びHRCの私立大学学術研究高度化推進事業関連では、これが採択されることが前提ではあるが、実験機器装置等の調達を実施する予定である。

6- (2) 情報システム関係について

情報システム関係では、第4次長期計画の事業のひとつである「ユビキタス教育環境」の整備を大きな柱としており、とくに平成18年度は、有線・無線を含むネットワーク環境の整備、Web系サービスの展開を中心に計画をすすめている。また、平成19年度にむけて全学教育改革の議論が現在進んでおり、それをふまえながら教育のIT化にかかわる支援方策を検討する。

- 学生、教職員むけのWeb系サービス（ポータルサービス、Webシラバス、Web履修登録）を準備し、平成19年度にむけ順次展開する。
- 無線LANの全学的展開、教室等のDHCP化をはかる。
- e-ラーニング環境の整備にむけた準備と試行的取り組み
- IT支援機能の強化

1) 基幹ネットワークの整備

情報基盤整備として進めてきた無線LANの全学的運用を平成18年4月から開始する。3キャンパスに設置した約100のアクセスポイントに学生・教職員が各自のノートパソコンを使って接続することにより、インターネットの利用ができるようになる。また主要な教室についてはDHCP化(ネットワークに接続しようとするパソコンにIPアドレスなどの情報を自動的に割り当てる仕組み)をはかり、教員は有線・無線を問わず使える環境を整備する。これらは平成17年度に運用を開始した全学統合認証システムを利用することにより

ユーザの認証や通信の暗号化を実現している。また学外からもWebを通じて各種のサービスに接続できる仕組みを導入し、図書システムやポータルシステムを大学外から利用できるサービスの展開をすすめること、ならびにウイルスチェックサーバの強化などを計画している。なお現在学内で検討が進められているユビキタス教育環境整備の進行に併せ、それを運用するための基盤として、安全・安定かつ快適なネットワーク環境の整備を進めていくことを計画している。

2) 情報教育環境の整備

教育に必要な情報基盤の一つである普通教室のマルチメディア機器整備について、全学的視点に立ち継続して検討を進めているところである。平成18年度の計画では、深草学舎を中心に整備を図ることとし、授業以外に講演会など多様な用途で利用する3号館を全面改修する。また、いつでもどこでもインターネット環境があれば授業を受けることが可能なオンデマンド授業について、教育効果の可能性を検証するため試行的に実施する。具体的には外部のオンデマンド授業流通フォーラムを利用し、社会学部開講の「子ども社会学」をコンテンツ化することにより、インターネットを通じて他大学とのジョイント授業を展開する。加えて、学生への自学自習環境の提供と新しい授業方法への対応を図るため、教学部と連携してeラーニングシステムの導入に向けた全学的取り組みを進めるとともに、あわせて普及促進を図るための組織的な支援体制を検討する。

3) 事務システムの整備

「ユビキタス教育環境」整備に向けた諸課題のうち、学生と教職員間のコミュニケーション環境基盤を整備することを目的として、3つのWeb系サービス（ポータルサービス、Webシラバス、Web履修登録）を平成19年度に向け順次展開すべく開発を行うとともに、これらサービス上で展開される追加機能の開発も順次進めていくことを計画している。あわせてWeb系サービス展開に必要な各種データの授受を行うため、基幹系業務システムのインターフェイス開発および運用を含めたシステム対応を実施する。基幹系業務システムについては、平成18年度開設の経済学部新学科への対応、および平成19年度に向けた全学教育改革の具体化に合わせた教学システムの改修を予定している。また、現行システムを維持しつつも、次期基幹系業務システム開発に向けた開発計画の策定と現行業務分析に着手することも予定している。